

平成 1 5 年度 病害虫発生予察注意報 第 2 号

平成 1 5 年 7 月 2 5 日

発表：福島県病害虫防除所

病害虫名：イネいもち病（穂いもち）

- 1 発生地域：県下全域
- 2 発生時期：並（浜通りはやや遅い）
- 3 発生量：やや多
- 4 注意報発令の根拠

7月中旬の巡回調査の結果、県内全域で葉いもちの発生が確認され、一部のほ場で「ずりこみ症状」がみられた。今後、葉いもちの上位葉での発生、発生面積の拡大が懸念される。

現在までの気象経過は、いもち病が多発した過去の冷害年に酷似している。

天候予報によると、向こう1ヶ月の気温は平年並か低く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されている。

低温、日照不足により稲体が軟弱化し、いもち病に対する抵抗力が弱まっている。今後気温の上昇に伴い、稲体の葉いもちに対する感受性が高まると予想される。

葉いもちの予防粒剤（箱粒剤または水面施用剤）を施用したほ場でも、葉いもちの病斑が認められたので、これらのほ場でも、今後上位葉での葉いもちの発生が懸念される。

B L A S T A M（J P P - N E T版一部改変）により、葉いもちの感染好適日を推定した結果、7月3～5半旬にかけて、県内全域で感染に適した日が多く出現している（表1）。

B L A S T Lにより、葉いもちの発生を予測すると穂いもちの伝染源となる上位葉の出葉時期に、病斑数の増加が予想される（図1）。

5 防 除 法

現在、葉いもちの発生が見られるほ場では、直ちに散布剤（液剤、粉剤等）による防除を実施して、上位葉での病斑の発生、増加を防ぐ（表3）。

葉いもちの予防粒剤（箱粒剤または水面施用剤）を使用した場合でも、ほ場をよく観察し、葉いもちの発生がみられる場合には、散布剤（液剤、粉剤）による追加防除を実施する。

穂いもちを対象に水面施用剤を使用する場合は、適期に施用する。その場合、ほ場を湛水して散布し、散布後は4日間程度止水する（表4）。

穂いもちを対象に散布剤を使用する場合は、穂ばらみ末期と穂揃期の2回の薬剤散布が必須であるが、止葉及び次葉に病斑が多く見られる場合には、傾穂期の薬剤散布を追加する。

表1 いもち病（葉いもち）感染好適条件出現状況（BLASTAM, JPP-NET版を一部改変）

地 点 月 日	会津山間	会津平坦	中通り	阿武隈	浜通り
	只南田 見郷島	喜西金若猪 多会 苗 方津山松代	茂梁福二郡湯白石東 本 白 庭川島松山本河川川	飯川船小 館内引野	上相浪広小 遠 名 野馬江野浜
7月11日	- - -	- - - - -	- - - - -	- - -	- -
12	-	-	- - - - -	- - -	- - - -
13	- - -	- - - - -	- - - - -	- - -	- - - -
14	- -	- - - - -	- - -	-	- - - -
15	- - -	- - - - -	- - - - -	- - -	- - - -
16	- - -	- - - - -	- - - - -	- - -	- - - -
17	- - -	- - - - -	- - - - -	- - -	- - - -
18	- - -	- - - - -	- - - - -	- - -	- - - -
19	- - -	- - - - -	-	-	- - - -
20	- -	- -	- -	-	- - - -
21	-	- -	- - - -	-	- - - -
22	- -	- - - -	- - - - -	- - -	- - - -
23	- -	- - - -	- - - - -	- - -	- - - -
24	- - -	- - - -	- - - - -	- -	- - - -
25	- - -	- - - -	- - - - -	- -	- - - -

注）前5日間の平均気温を18度に設定している

：感染好適条件、：準感染好適条件、：感染可能条件、
-：感染好適条件を満たしていない

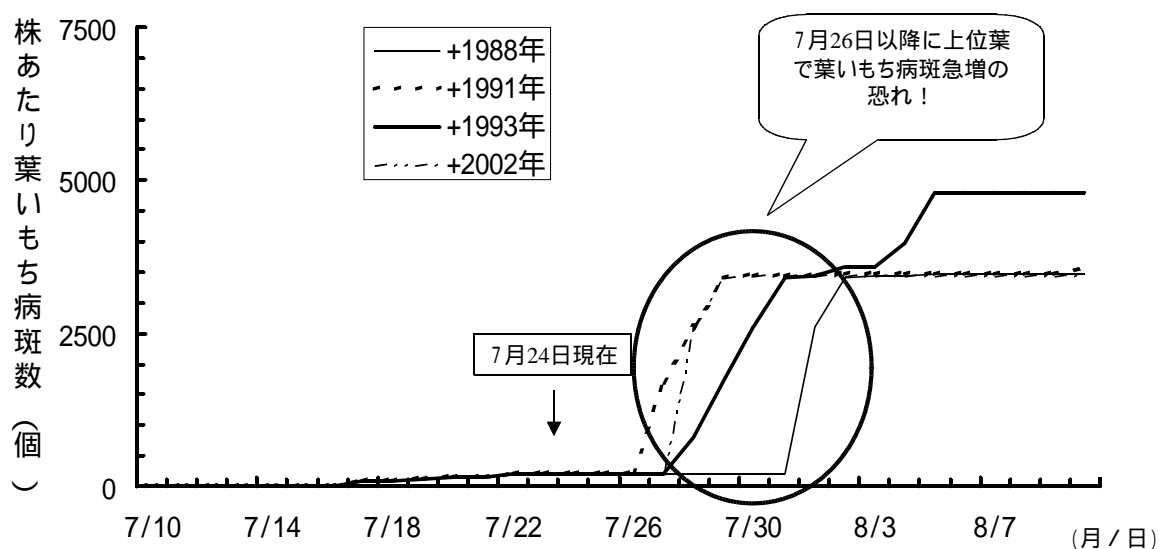


図1 BLASTLによる葉いもち病勢進展予測結果(郡山)

7月25日以降に1988年、1991年、1993年(過去の冷害年)、2002年(夏季の高温年)のいずれかの気象条件となると仮定しても、上位葉での葉いもち病斑急増の恐れがある！

表3 いもち病の散布薬剤

薬 剤 名	剤 型	総使用回数	使用時期[収穫前日数]
アチーブ	粉剤DL	3	14日前まで
カスラブサイド	粉剤3DL, 水和剤、ゾル	5	21日前まで
キタジンP	粉剤30DL, 乳剤	3	21日前まで
デラウス	粉剤DL, フロアブル	2	14日前まで
ヒノザン	粉剤DL, 乳剤30	3	21日前まで
ビーム	粉剤DL, ゾル	3	7日前まで
フジワン	粉剤DL, 乳剤	3	14日前まで
ブラシン	粉剤DL, フロアブル, 水和剤	2	21日前まで(水和剤は30日)
ラブサイド	粉剤DL, フロアブル, 水和剤	4	21日前まで

使用濃度, 量は液剤, 乳剤, 水和剤及びゾル: 1,000倍液, 140～150リットル/10a、粉剤: 3～4kg/10a

表4 穂いもちの水面施用剤

薬 剤 名	使用時期	10a 当たり使用量	備 考
アチーブ1キロ粒剤24	出穂前10～25日頃	1 kg	・粒剤の施用時期は出穂前15日が施用適期である。 ・各薬剤とも湛水して散布し散布後、4日間程度止水する。
キタジンP粒剤	" 10日頃	5 kg	
コラトップ粒剤5	" 10～15日頃	4 kg	
コラトップ1キロ粒剤12	" 10～15日頃	1 kg	
フジワン粒剤	" 10～15日頃	4 kg	
フジワン1キロ粒剤12	" 10～15日頃	1～1.5kg	
フジトップ粒剤	" 10～15日頃	4 kg	
コラトップパック	" 10～15日頃	10～13個	

注)コラトップパックは、藻や草で薬剤の拡散が阻害される場合には使用しない。